

全道高校体育大会

20日、札幌サッカ  
ーアリーナ(札幌)  
トパークほか

サッカー男子の3回戦4試合、同女子は準決勝2試合が行われた。男子は樽潮陵がFW松浦彰馬(2年)などの活躍で道栄に5-0と快勝し、初の4強進出を決めた。女子決勝は11年連続で道大谷室蘭と道文教大明清の顔合わせとなった。柔道は男女の個人戦が始まり、女子57kg級では旭大高の中島清久がうれしい1年生チャンピオンに輝いた。同70kg級の前谷真唯(東海大四3年)、同78kg級の佐藤杏香(東海大四2年)、同78kg級の樽川蘭(北海2年)がそれぞれ連覇を達成した。陸上では女子走り幅跳びで、西本亜海(恵庭北2年)が追い風參考ながら、大会記録タイの5m78cmで初優勝した。

# 樽潮陵

## サッカー創部45年目で初

### 遠藤 豪快! 40発弾



道栄から25得点

伝説校が、歴史に新たな1ページを刻んだ。樽潮陵がFW松浦のスピードを生かした攻撃を中心に、道栄を5-0と圧倒。1969年(昭和44年)創部以来、45年目でうれしい初のベスト4進出を飾った。

監督 出来過ぎ

先制点を取って勢いに乗ったと、その後チームの猛烈な攻撃の導火線を務めた。就任8年目の奥井宏監(5)は「出来過ぎ。うち地方の公立の進学校。特別な練習はない。本州への遠征もない。真面目に頑張るところが、(試合)きれいに出了。この日の試合前には「ゲームも厳しいが、これからの受験勉強の方がもっと厳しい」と進学校ならではの激励で選手を送り出した。

樽潮陵は1902年(明治35年)創立の地域

を代表する進学校だ。放課後練習は大きな大会前は3時間行すが、普段は2時間。この日、2点目となる40発弾を豪快に決めたMF遠藤巧(3年)は「無駄に時間を使わないように、まず基本練習をして、いろいろな戦術を想定しながらゲーム形式も取り入れる」と、シンキング・フットボールに取り組み。受験勉強のため、3年生がピッチを離れるのも近い。道大谷室蘭との準決勝に向け遠藤は「今までのものを出し切り、悔いのない試合をしたい。気持ちだけは負けない」。

完全燃焼する時、それは今でしょ!

樽潮陵前半31分、MF遠藤(右から2人目)が豪快なシュートで2点目を決め、仲間を祝福される。

(山根千治)